

蒙古族

者なく、沿道到る處更に哈薩克の乞食を目撃せしこと無し。

蒙古族に至ては、徒に喇嘛教に心酔し、蓄財の觀念甚だ薄弱なり。彼等は兄弟數人あれば、半ば剃髮して不生産的の僧と爲り、餘は牧畜に従事するも、其の得たる財貨は、大半喇嘛僧に喜捨するを常とす。故に蒙古族の財産は、自然に流れて喇嘛僧の手裏に聚る。是を以て蒙古族中、富者は僧なりと云ふも、敢て誇言に非ざるを信ず。

されば喇嘛僧以外の一般蒙古人は、概して貧しく、富豪と稱すべき者あるを聞かず。要するに、蒙古族の財産分配の狀態は、平等にして、一般貧困なり。隨て富者と貧者との間は、隔絶なく、平穩なるが如し。而して蒙古人の財産を以て、哈薩克に比較すれば、蒙古人は哈薩克族よりも迥かに貧なりと謂ふべし。

纏頭回

纏頭回は、土着して農牧商工を營むも、全般を概觀すれば、恒産あるもの多からず。即ち貧者多く、富者少なし。農民にして數百町の田畑、數萬頭の牛羊を所有し、商人にして數十萬の資あるは、全省を通じて、五指を屈するに過ぎず。隨て極貧者に至りては、其の住家すら無き者あり。